

自分たちの地域は 自分たちで守る!!

大災害から守ってくれるのは誰? 今、「共助」の力を高めるとき

近い将来、必ずやってくる 南海トラフ地震

南海トラフ地震の発生確率は今後30年以内で70〜80%、最悪の場合、地震や津波による県内の死者は約1万6000人に上ると想定されています。広い地域で地震・津波による家屋の倒壊や、ライフラインの停止等により、多くの人が避難生活を余儀なくされるかもしれません。

災害時は地域の人たちで 助け合う「共助」が大切

阪神・淡路大震災では、家屋倒壊などに巻き込まれながら助かった人の約98%が自力や地域の人たちの力で助かっています。災害時の公的機関による「公助」には限界があり、まず自分と家族を守る「自助」、その後地域ぐるみで救助活動や避難所運営を行う「共助」が大切。少子高齢化が進むいま、「共助」の役割が特に必要とされています。

地域の防災力を高めよう

「共助」の担い手となるのが、町内会や小学校区などを単位に組織されている自主防災組織。各組織では、避難訓練や避難所運営訓練等を実施しており、その情報は地域の回覧板などで発信されていますので、積極的に参加しましょう。また、避難行動要支援者の避難をサポートするのも地域の皆さんの力です。

※…高齢者や障がい者など、災害時に自ら避難することが困難な方。各市町は、これらの人々が地域の支援を受けて避難する計画の作成を進めています。

南海トラフ巨大地震の 震度・津波分布図

他人事じゃない!
愛媛県でも震度7の大地震や
津波が想定されている!!



◎避難所は自主運営が基本!



日頃からの備えも大事! 「自助」の意識もしっかり持って

県では、昭和21年に南海地震が発生した12月21日を「えひめ防災の日」、12月17日〜23日までの1週間を「えひめ防災週間」と定めています。自分と家族を守る「自助」として、この機会に、災害への備えを確認しましょう。

特に、住まいの備えは最重要。地震による死傷者の多くが家屋や家具の倒壊によるものですので、住宅の耐震化や家具の固定は必須。

万が一の被災時に生活を再建する

ための保険への加入も重要です。「火災保険」に入っているから、災害にあっても大丈夫ではありません。地震保険に加入していなければ、地震や津波による被害は補償されません。また、ベシックなタイプの火災保険では、洪水や土砂災害などの水災は対象としていません。すでに加入している方も補償対象内容が十分か、見直してみよう。

非常用持出品や家庭用備蓄は家族構成を考えて準備しましょう。

非常用持出品と備蓄をチェック!

飲料水や食料品等は 非常用持出しとして3日分 家庭用備蓄として7日分

- 食料・救急医薬品/生活用品など
- 飲料水(1人3リットル/日)
 - 救急セット
 - 衣類
 - 充電器
 - トイレ用ペーパー
 - ライター
 - 非常用食品
 - タオル
 - ティッシュペーパー
 - 携帯用トイレ
 - 現金・小銭

- 避難用具/感染対策用品など
- 懐中電灯
 - 乾電池
 - ヘルメット・防災ずきん
 - マスク
 - 体温計
 - 携帯ラジオ
 - 消毒液
- ペットの防災グッズも忘れずに!

地震保険・水災保険に加入しよう!

地震・津波・風水災等に対する経済的な備えに。今一度確認を。

詳細はコチラ

家具を固定しよう!

強い地震で固定していない家具は倒れます。家具の下敷きで命を落とすことも。

家庭用備蓄は消費した分を買い足していくローリングストック法がオススメ!

TOPICS-1

参加しよう!「シェイクアウトえひめ」

参加者がいっせいに「3つの安全確保行動」をとる訓練。自宅・学校・職場など、どこでも参加できます。

地震発生時 3つの安全確保行動

- DROP!** 1 まず低く
- COVER!** 2 頭を守り
- HOLD ON!** 3 動かない

詳細はコチラ

日時 12/17(金) 11:00~(1分間程度) ※ご都合に合わせて、12/23(木)までの期間内での実施も可能

申し込み 上記の二次元コードから参加登録

TOPICS-2

災害に備えよう!「えひめ自助・共助推進フェア」

シンポジウム(オンライン配信)
「災害時の住民避難を考える」をテーマに講演、自主防災組織による活動事例紹介、パネルディスカッションなどを予定。

日時 12/21(火) 13:00~15:30
対象者 自主防災組織関係者、防災士等

家族で楽しむイベント
ステージイベント「愛媛一受けたい防災授業」や体験コーナー、防災グッズが当たるクイズラリーなどを予定。

日時 R4.1/15(土)・16(日)
場所 エミフルMASAKI

